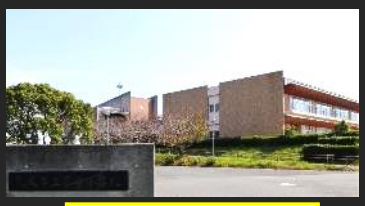
令和７年１０月３１日（金）発行　　校長　　島　章人

学校だより
「まんだ」
No.１２

自他を大事にする子供
学び続ける子供
共に未来を切り拓く子供



認める力　やりぬく力　表現する力

心持ち大きく

先日、地域の方から「『学校だより』楽しく読んでます。」という、うれしい言葉をいただきました。「ただ、字が小さくて、紙も真っ白じゃないから、ちょっと私たちには読みづらいのがねぇ。大きい紙にはなりませんか？」とおっしゃいます。確かに、書いた私自身も、実際に印刷された紙面を見ると、読みづらい。ということで、この回から、心持ち文字を大きくしてみました。

これも先日、グランドゴルフ大会に参加したときの話。ある先輩の先生が、体育の準備運動の仕方を教えてくれました。「私が、１・２・３・４と号令をかけるので、皆さんは続いて５・６・７・８と声を出して体を動かしてください。」とおっしゃって、準備運動を始めました。ところが始まるや否や、「みんなの前で声を出すのって、少し勇気がいりますよね。でも、少しの勇気を集めると大きな勇気になる。私は、そんな風に子供たちに教えます。」とおっしゃったんです。

「声が小さいと、自信がないように聞こえる。」と指摘されたことも思い出しました。「表現する力」には、相手のことも考えて、心持ち大きな字で、心持ち大きな声で表現するというその「相手を大事にする心持ち」が重要なのだと思います。

陸上記録会

昨日、荒尾市の陸上記録会がありました。市内の各小学校から６年生が集まり、これまでの練習の成果を競い合いました。「自他を大事にする」万田小の子供たちです。自己ベストを目指して頑張る姿も、頑張る友達を一生懸命応援する姿も素晴らしいと感じました。

最後の対抗リレーは、男女で１組ずつ１位を取ることができました。

怖い方がいいです

担任がお休みをいただいたあるクラスに自習監督に入りました。「えぇ！次の時間、校長先生が来てくれるんですか？校長先生がいいです。優しいから。」とうれしいことを言ってくれるので、ちょっと照れ隠しで「校長先生は怖いばい。」と言いました。すると、別の子が、「怖い方がいいです。」と。「だってね。先生が怖い方が、勉強が身に付く。」と言うのです。きっと、この子はおうちの方からそんな風に言われているのでしょう。

ただ、その子の言葉でハッと気づいたことがあります。それは、２つの意味で、「先生は怖い」というイメージがいつの間にかなくなってしまったということです。一つ目は、私自身が、子供たちを真剣に叱ることができなくなってしまったということ。かつては子供たちと真剣勝負で、唾を飛ばしながら激しく叱っていたのに、「自分にはその熱がなくなってしまったのか？」と寂しくなります。もう一つは、かつての学校の先生は、怖かったはずなのに、最近は先生が子供たちを叱らなくなってしまったということ。（「ほめて育てる」が浸透してきたか？）

学校は学びの場ですから、当然、いいことも悪いこともあります。いいことをしたら褒め、悪いことをしたら叱るのが基本だと思うのですが…。（子供には叱られる権利がある。）

「怖い方がいいです。」の言葉に、どこか懐かしさを感じ、学校の原点を思い起こしたのは、私にとってはうれしい気づきでした。